

第 18 回 全国外洋加盟団体長会議 議事録

開催日；2023 年 1 月 29 日（日）10:00～12:50

会議の場所及び方法：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUAR 3 階会議室と

WEB 会議（Zoom）の併用開催

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、中村隆夫副会長、大村雅一 常務理事、中村和哉 理事、
萩原ゆき 理事、鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事
安田大助 理事、沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事

（加盟団体 代表又は代理）

外洋津軽海峡会長 石川彰（理事兼）、外洋いわき会長 菊地邦仁、
外洋東京湾会長 足立利男、外洋三崎会長 二松工、
三浦外洋セーリングクラブ副会長 才藤滋、外洋湘南会長 作田智恵子、
外洋駿河湾会長代理 遠藤智（事務局長）、外洋東海会長 大島茂樹、
外洋近北会長 高橋利明、外洋内海会長代理 猪上忠彦（事務局長）、
外洋西内海会長代理 小山悟（事務局長）、外洋玄海会長 沼田浩行（理事兼）、
外洋南九州会長 石川国彦、外洋沖縄会長代理 徳田恭紀、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、坂口城治 通信委員長、
三浦伸郎 レースマネジメント委員会外洋小委員長、
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長、
久保田悟 キールポート強化委員会事務局長、
坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、
小山悟 外洋艇登録事務局長

（加盟団体）

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で 10：00 より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。

議事

（1） JSAF 外洋系の 2023 年度方針

大村常務より、・外洋系の方針、・セールナンバー普及、・ヨットクラブとの連携

について説明があり、ヨットクラブとの関係については、馬場会長が子供からシニアまでヨットを続けてもらうことが大事だと考え、各地のヨットクラブや泊地でヨット活動をしている団体を訪問して、連携を強めたい意向であることが紹介された。

(2) 加盟団体に係る JSAF の案件について (加盟団体規程、選挙制度改正 等)

① 加盟団体規程

大村：昨年加盟団体規程 (案) を皆さんに示したところ、多くの質問や意見を頂いた。

加盟団体と JSAF が対等である、との考え方にに基づき加盟団体の加入条件等を整理し、JSAF は指導だけではなく助言や支援をするような仕組みへの見直しが検討されている。

2 月末には見直した案が提示される。

② 理事選出方法の改正案

大村：理事選出方法の改正案は配布している通りである。

国際的にまたスポーツ界ではジェンダー平等が強く叫ばれていることがあり、JSAF も女性理事を 40% 以上にする目標を掲げた背景もある。

理事の定数の割合が今までは J 系対外洋系の割合が 2 : 1 だったが変わるので、団体長会議で議論していきたい。皆さんの意見を頂きたい。

JSAF に統合した時の状況を知っている出席者に聞いたところ、以下の意見と説明があった。

- ・現状の水域を検討して案を纏めたら如何か。
- ・合併当時は、都道府県連が加盟団体である JYA とバランスをとるために、NORC の支部を加盟団体にして、外洋系の加盟団体を増やしたこと、発足当時の理事数は加盟団体の数とその会員数の比率で決めた。

次に改正案について以下の意見が出された。

坂谷：選挙理事の投票数が重要。投票の部分を平等にすべき。

先ず、各団体に 1 票ずつ配分し、次に団体の規模に比例して配分すべき。

猪上：ジュニアにも票をあたえるべきなのは考えたほうが良い

作田：湘南ではジュニア会員を設けたが、総会での議決権はない。

外洋系は長く会員になっている人が多いが、ディンギー系は継続して登録する人が外洋系に比べて少ないので、長く会員である外洋系の人軽んじられてよいものか、会員数だけで判断してよいのか疑問。

理事の数が少ないことによる不利益はあるか。

大村：外洋系のレース等の意見を反映させるためには数は必要。

作田：理事は全体のことを考えるべき。

足立：合併して20年経ったので、違いを認識しながらしっかりとやっていけば良いと考える。

菊地：今回は水域の見直し等にとどめ、早急に進めないほうが良い。

作田：1票の対しての格差がある。

沼田：男女1名ずつの水域では現実にそぐわない面もあるのではないか。

大村：さらにご意見をいただき今後も検討をしていきたい。

必要であれば、臨時団体会長会議を開催する。

(3) 各専門委員会からの報告

① 外洋常任委員会

・外洋ダブルス

大村：2028年に外洋ダブルスを再開したいとの意見がワールドセーリングで出ている。

船澤：ワールドセーリングでは、今後はワンデザインに限らずに、ハンディキャップを使用したダブルスのレースを増やしていきたい、とのことであった。

大村常務より、今年の外洋ダブルスの概要説明および、JSAFが主催するためにレース運営規則の変更を予定していることが説明された。

・小笠原レース2023

大村：小笠原レースの共同主催団体である、JOSAから申請がされる予定。

実施の内容については資料の通り、カテゴリ2で実施する。

スタート前にストームジブとトライスルを揚げてパレードをする。

平出：カテゴリ2については合同委員会で説明する。

・シーサバイバルトレニング

大村：関東での開催を考えていたが、予定施設が屋外プールなので、春以後の開催を考えている。

続けて大村常務より、・BAN加入特典、・環境保全、・海上保安庁との連絡調整強化について説明があった。

② 外洋計測委員会

川合：昨年末よりの証書発行の受付を行っているが現在の状況はIRC114艇の申し込み、39艇の証書発行を行った。ORCは4月からの運用となるので、現在の申し込み数18艇。

今年度はIRC、ORCともレヴィの値上げがあり、約1,000円値上した。

③ 外洋安全委員会

平出：合同委員会ではカテゴリ3のキールとラダーの点検について特に説明

する。合同委員会の受付締め切りは1月末まで延長している。

④ レースマネジメント委員会外洋小委員会

三浦：提出した資料は一般的なレース実施の実態調査の結果を整理したものである。

海上のレース運営スタッフ数、運営艇数について調査した。

詳細については合同委員会で説明する。

採用しているレーティングはIRCのみとIRC+PHRFが約53%、IRC+ORCとPHRFを足したものの合計が37%となっている。

デュアルスコアリングは67%となっている。

まだ、詳細についての集計ができていないので整理が済んだら他の専門委員会に展開する。

レースオフィサー制度においては合同委員会で説明する。

次に向けてディンギー、外洋艇の分け隔てなく講習できるように資料を整理する。

⑤ ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：活動報告、RRS77条、外洋ダブルス、カテゴリ2、附則G1、2(a)(b)の遵守、及び判読が難しいセールナンバーについて説明することが報告された。

⑥ キールボート強化委員会

久保田委員長より、事業計画、U25、マッチレースを2月24日、25日、26日に開催すること、英国で開催されるチームレースへの派遣のサポート、ニューヨークヨットクラブのインビテーションナルカップ、キールボートパークのヒアリングの結果が報告された。

⑥ ジャパンカップ委員会

中澤副会長より、ジャパンカップは5年開催されていないこと、オーナーが開催して欲しいとの気持ちを持っていることから、オーナーに委員長になってもらい、JSAFがサポートするようにしたいこと。泊地のハードルが高いので委員会の協力を得てルールを変更したいこと。

2月8日に意見交換会を開催することが報告された。

船澤委員長より、10名が2日間オンラインで意見交換し、その中でオーナーにやろうとの気持ちがないと前に進まない、クラス分けをしてそれぞれにジャパンカップを与える、ディンギーも含めたジャパンカップウイークを設ける等の案が出ていることが報告された。

(4) 各団体からの報告

・外洋津軽海峡

石川：函館では冬は艇に行くのに雪かきをしなければならず、活動ができない。
現在冬眠中。

・外洋いわき

菊地：いわきサンマリーナが復活したが艇を置けるだけで設備がない。
レースの開催を検討している。去年は Y33 で体験教室を開催した。

外洋三崎

二松：今年度は5つのレースを企画し、3つを開催した。
現在組織変更に取り組んでおり、4月1日より新組織になることで進めている。

三浦オーシャンセーリングクラブ

才藤：1月8日にシーボニアで新春親善レースを行った。ルール勉強会を2月から3月にかけて行うことを検討している。

外洋湘南

作田：大島レースは例年通りに開催、パールレースは外洋東海との共同主催でパーティー無しで表彰式のみを行った。レース時に抗体検査を実施している。
コモドアレースは天候が悪く初めて中止となった。

JOSA のシーサバイバルの翻訳本を配布したところ、評判が良かった。

コロナ禍で会員が減ったが今年は戻ってきている。

レースマネジメント委員会のアンケート結果でデュアルの回答が多かったがどこの水域が多かったのか知りたい。

三浦レースマネジメント委員外洋小委員長より以下の回答があった。

レースの有り無しの回答から報告した。すべての団体からの回答結果が、「はい」が60%、「いいえ」が40%であった。

IRC、ORC の中で「いいえ」は2か所だけ。IRC と ORC のデュアルは70%が「YES」の回答。関東では「はい」の回答が70%、「いいえ」が30%であった。詳細な内容をもう少し調査する。

外洋駿河湾

遠藤：2022年度は10レースを開催し、駿河湾横断レースは見送った。

外洋東海

大島：2022年度は7レースの内、6レースを開催、1レースを中止した。

パーティーは5レースで開催予定だったが、全て中止とした。

2023年度は6レースを予定し、パーティーも開催の予定。

外洋近北

高橋：コロナでレース数が減っていたが、元に戻った。

敦賀カップとヤンマーカップに協力している。

外洋内海

猪上：殆どのレースを開催したが、パーティーは開催し辛かった。

外洋西内海

小山：毎年 12 レースを開催しているが、22 年は 4 レースがノーレース。

大雨の後、流木で海面が良くないので中止となったレースが 2 レース。

パーティーが開けず、レースのみとなった。

外洋玄海

沼田：昨年は通常通りのスケジュールで開催した。上下のブイ周りが基本だったが参加が減った。島回りレースに変更して活動したい。

外洋南九州

石川：2022 年はウィズコロナで 13 レースを計画したが、6 レースが中止。

外洋レースは種子島レースが開催できた。パーティーはなしで成績は LINE で発表した。

三島カップは 7 月 29 日にスタート、種子島レースは 5 月 4 日スタートでほぼ決定。1 月 15 日に新春ブラボーレース、今年は 10 月に国体、11 月にミニトン全国大会を行う予定。

外洋沖縄

徳田：2022 年度は沖縄一東海レースと座間味レースを開催した。

23 年度は 6 レースを予定。

(5) 意見交換

・レーティングについて

大村：IRC を取らないと ORC は取れなくなるのか、との質問と、2024 年に ORC はなくなるのか。との問い合わせが来ている。

川合：外洋計測委員会の会議の中で意見として出たが、委員会の結論ではなく、IRC を取らないと ORC を取れないということはない、また 2024 年度に ORC がなくなることもない。

大村：今のところレーティングの変更はないが、大きく変わる時は団体長会議で決めていきたい。

(6) その他

船澤：会員を増やすためには子供を増やすのが重要と考える。

海外では子供を増やす仕組みがあるが、国内でそのような仕組みを持ったところがあれば教えていただきたい

二松：ニュージーランドではオーナーが子供達をディングーで訓練している。

ユースプログラムがなければクラブは続かない。

日本ではディンギーを持つ施設がない。

作田：外洋団体のクラブハウスが海にない。

猪上：日本ではジュニアをやってもレースの方向に行ってしまう。

皆国体を目指してしまう。

健全なヨットクラブを育てたい。

沼田：クルーザー体験はやっている。

船澤：意見交換をしていきたい。

中澤：ディンギーを購入する場合にはJSAFの免税寄付を利用することができる。

二松：ユースプログラムを日本で行われているところを調べたら良いと考える。

船澤：ワールドセーリングのプログラムを日本でできないか検討している。

大村常務理事より 2023 年度の日程説明、及び次回団体長会議開催場所の函館の石川理事のあいさつの後、中村副会長の閉会の挨拶で 12 時 50 分に閉会となった。

以上